

# 稲城野草散策の会

野草スケッチ ノイバラ（バラ科）



1996/05/27 稲城市坂浜 絵と文 Ta

憂いつつ岡にのぼれば花いばら 蕪村

この俳句の解釈をめぐって、パソコン通信上で議論したことがあった。  
@nifty の FBIRD フォーラムにあった、植物の会議室「フローラ」でのことであ

---

会報第54号 2009年06月06日発行 発行責任者 尼子 房夫

る。

(注：現在 nifty ではフォーラムを廃止している)

俳句を紹介したRさんは、「花いばら」とはノイバラのことであろうとした上で、白くわびしいノイバラを見て、余計憂いが増した、という解釈をされていた。ノイバラについての私のイメージは、初夏の明るい日差しを浴びて咲き誇っている姿だ。

私は俳句に関してはまったくの門外漢であるが、憂いが増したという解釈はそぐわないのではないかと、といったことを述べたのである。

数回のやりとりはあったが、そこでの結論は出なかった。

皆さんはどう思われますか？

スケッチは5月27日、稲城市坂浜で描いた。

晴天の暑い日だった。

谷戸田の農道脇に咲いていたものである。

カンカン照りの下でのスケッチはつらい。

白い紙を見つめていると、反射で目がおかしくなってくる。

私は汗かきなので、汗が滴り落ちる。

手が汗ばんで画用紙を汚してしまう。

絵の具の乾燥が速すぎて、微妙な色合いが出しにくい。

日差しを遮るものがほしいが、何も無い。

もともと、日陰には咲かない花なのだ。

傘を取り出してはみるが、両手がふさがっているため、支えることができない。

リュックを担いで、そこへ傘を結わえ付けてみたが不安定だ。

正面から日が差し込んでくるような場合には、この方法では役に立たない。

日差し対策は、最近になって、どうにか解決したが、それを説明するためには、私の装備から話を起こす必要があり、長くなりそうなので別の機会に紹介したい。

冒頭の俳句に戻る。といっても、余談であるが。

パソコン通信上での議論を行ったのは、もう、7～8年前だ。

ノイバラについて書くにあたって、この俳句のことを取り上げようと思った。

ところが、どんな句だったのか、誰の作だったのか、思い出せないのである。

引用するからには、特に俳句では、一字たりともおろそかにはできない。  
過去の通信記録（ログ）を探したが、パソコンも既に3代目であり、どこへ行ったか、わからなくなってしまった。

突然、「花いばら」という語句を思い出した。

ふだん、あまり使わない言葉である。

そこで、インターネットを使って、検索をかけた。

検索結果は24件あり、1番目で蕪村の句が出てきた。

便利な世の中になったものだ。

さらに余談。

検索結果を見ているうちに、蕪村句集に「花いばら故郷の路に似たる哉」という作があることも知った。前出の句とどう関連があるのかはわからないが・・・

なお、冒頭の「憂いつつ」は、「愁ひつゝ」と書いてあるサイトもあった。

どちらが正しいのか、これまた私にはわからない。

（2000年5月記）

\* \* \* \* \*

## 〔観察記録〕 5月23日 上小山田～長池公園

少し前は曇りから雨だった予報が晴にかわり、暑くなることが予想されましたが、お天気に誘われて70名を越える参加者がありました。

唐木田駅を出発して、途中から「よこやまの道」に入りました。入り口のあたりにはヤセウツボが見られました。この道には色々な樹木が植えられていて、コシアブラなどこのあたりでは見られないような木があります。それにしても午前中は暑かったですね。

正山寺の周辺で昼食休憩をして、午後から長池公園に向かいました。今回は従来の谷戸を通る道ではなくて「よこやまの道」を歩きました。途中に「鶴見川の源流」があり、立ち寄りました。キショウブの黄色の花、ヘラオモダカの白い花が咲いていました。

長池公園の入り口にはセンダンの花が咲いていて、桜の木にサクランボの実がついてました。ここでは沢山のサラサウツギの花がきれいに咲いていました。つぼみはドウダンの花のように見えますが、花が開くと八重のきれいな花です。これはサラサウツギに近い園芸種かもしれません。

細長い長池公園を歩いて堀の内駅に向かいましたが、途中には色々な樹木が植えられていて、面白い道です。

堀の内駅まで結構歩いた一日でした。次回は6月6日寺家ふるさと村です。またお会いしましょう。

(FAM)

▲観察記録（番号順）

(01)ブタナ(花)、(02)セイヨウミヤコグサ(花)、(03)コウゾリナ(花)、(04)イヌムギ、(05)ヒメコバンソウ、(06)クスタマツメクサ(花)、(07)ムラサキツメクサ(花)、(08)カモガヤ、(09)ウシノケグサ s p、(10)コバンソウ(実)、(11)コヒルガオ(花)、(12)ヤセウツボ、(13)カモジグサ、(14)ハコネウツギ(花)、(15)ナガバキシギシ、(16)シロバナマンテマ(花)、(17)オオスズメノカタビラ、(18)ネズミムギ、(19)ヤマハゼ、(20)ヤマグワ(実)、(21)スイカズラ(花)、(22)ナワシロイチゴ(花)、(23)セイタカアワダチソウ、(24)イヌシデ、(25)アゼナルコ、(26)ニワトコ(実)、(27)コシアブラ、(28)アオカモジグサ、(29)カクレミノ、(30)タニウツギ(花)、(31)ヤマザクラ(実)、(32)カマツカ、(33)チガヤ、(34)アカシデ(実)、(35)ダンコウバイ、(36)ヒメユズリハ(蕾)、(37)エゴノキ(花)、(38)ノイバラ(花)、(39)ママコノシリヌグイ(花)、(40)ケキツネノボタン(花) (実)、(41)ウツギ(花)、(42)ニガナ(花)、(43)ヤマイタチシダ、(44)イヌワラビ、(45)ホソバシケシダ、(46)ツルウメモドキ、(47)エビツル、(48)ケヤキ、(49)ホオノキ(花)、(50)トウネズミモチ、(51)サルトリイバラ(実)、(52)テリハノイバラ、(53)ヤマユリ、(54)タマノカンアオイ、(55)ヤブコウジ、(56)ニガイチゴ(花)、(57)ガマズミ(花)、(58)イヌシダ、(59)モミジイチゴ(実)、(60)オオイタチシダ、(61)ネコハギ、(62)オヤブヅラミ(実)、(63)ベニシダ、(64)コバノガマズミ、(65)ヤマツツジ、(66)クロモジ、(67)アラカシ、(68)シラカシ、(69)シロダモ、(70)クヌギ、(71)コメツブツメクサ(花)、(72)コバノカモメツル、(73)ノビル(むかご)、(74)サワフタギ、(75)ミヤマナルコユリ(花)、(76)ナルコユリ(花)、(77)ハリギリ、(78)オオバノトンボソウ(蕾)、(79)キンラン(花終り)、(80)ワラビ、(81)ツタウルシ、(82)オニグルミ、(83)タラノキ、(84)シオデ、(85)ゲジゲジシダ、(86)シナダレスズメガヤ、(87)オカタツナミソウ(花)、(88)ニガキ、(89)ヤブムラサキ、(90)ハンショウツル、(91)トウゴクシダ、(92)コナスビ(花)、(93)オトギリソウ、(94)カラスザンショウ、(95)アメリカオニアザミ、(96) (抜け)、(97)ヒルガオ(花)、(98)スミレ、(99)ノカンゾウ、(100)ツルマンネングサ(花)、(101)タチヤナギ、(102)ハンゲショウ、(103)イグサ、(104)イヌショウマ、(105)ミドリヒメワラビ、(106)ヤマホトトギス、(107)モミジガサ、(108)ナガバノスミレサイシン、(109)ミゾシダ、(110)シロヨメナ(花)、(111)アブラチャン(実)、(112)イヌツゲ、(113)ムベ、(114)タツナミソウ(花)、(115)オカトラノオ、

(116)トボシガラ、(117)ジュズスゲ、(118)シラスゲ、(119)ツルニンジン、  
 (120)ウド、(121)ササバギンラン(花終り)、(122)ウグイスカグラ(実)、(123)  
 コゴメウツギ(花)、(124)ノアザミ(花)、(125)ツルウメモドキ、(126)ムラサキ  
 シキブ、(127)アケビ、(128)ミツバアケビ、(129)ワレモコウ、(130)ナンテ  
 ンハギ、(131)センダン(花)、(132)オオイタビ、(133)マユミ(花)、(134)ナギ  
 ナタガヤ、(135)クサイ、(136)ニワウルシ、(137)ミスタマソウ、(138)ゴン  
 ズイ、(139)オオカワズスゲ、(140)シシウド、(141)ミツバウツギ(実)、(142)  
 キツネアザミ(花)、(143)ヒメコウゾ(実)、(144)オオバギボウシ(花)

▲観察経路





## 稲城野草散策の会 21年目を迎えて

会長 内山 清

稲城市内の「野草を見て歩く会」が稲城市市役所の社会教育で行われていました。その会に私の隣の家の細田弘一さん（故人）に誘われて参加することになったのが、私がこの会に参加したそもそもの始まりです。広沢さんは私が入る前から参加していたのではないのでしょうか。市役所の「野草を見て歩く会」は3年ほど続いたのでしょうか。

平成元年3月末をもって稲城市市役所は手を引くことになり、当時「野草を見て歩く会」の講師をして頂いていた曾根先生（「日本植物友の会」の理事・故人）から『バックアップしますので継続をしませんか』とのお話を頂き、私共5人（内山、広沢、細田（故人）、尾形（故人）、横山）ほどで続けることにしました。その時、会長、副会長、会計をどのように決めるのか困りましたが、結論はジャンケンでの決定となり、私が負けて会長となり、広沢さんが会計を担当することになりました。くじ運が悪いのでしょうか。そのまま現在に至っています。

参加費は稲城市がおこなっていた金額300円そのままとし、保険料と講師料が全てでした。

ところが向こう見ずに始めたのは良かったのですが、人数を集める手段がありません。稲城市の「生涯学習便り“ひろば”」に掲載させていただきだけの手段でした。それでも“ひろば”の広報とはすごいと感じました。少しずつではありますが人数が多くなりつつある頃、2～3年してでしょうか、突然に講師の曾根先生が亡くなられると言う不幸に襲われることになり、会の存続が危ぶまれると言うことになるのですが、広沢さんが講師の先生が不在でもほとんどの植物は分ると明言され、会は続行となりました。

会の年間予定表ですが、1月の最初の会で当日七草を摘み、七草粥を作って食べながら4月よりの1年間分の予定表を出席の皆さんの総意で決めていました。現在は七草摘みをするところが近くに無く、黒川まで行くようになり2日間にわたるようになってしまいました。

最初の頃はこの予定表を皆さんへ配布するのに苦労していましたが、あるとき葉書に縮小をして郵送することに気がつき、それ以来インターネットで見ることが出来る人以外は郵送による連絡をしています。ちなみに昨年は980枚、今年には994枚の葉書を送りました。私のパソコン上の名簿での人数は、今日現在1188人です。この人数は1家族1枚の計算になっています。

予定表にある回数ですが最初の頃は年12回でしたが、順に多くなり最大23回まで行き、下見も必要ですので現在の年18回としています。この他はフローラオフ会とインターネットでの開催としています。このオフ会への参加は自由で参加費は同じ300円です。このオフ会は5年前からで77回を数えています。

参加人数が多くなるに従い、広沢さんの声が聞き取れなくなってきたと言う事情があり、トランペットスピーカーの使用を考え秋葉原に行きましたが大きくて重く大変なことが分り断念しました。会るとき皆さんに何か良い方法が無いかと訊ねたところ、三浦英夫さんよりトランシーバーを使用したらどうかと提案があり、1セットの購入依頼をし、使ってみると良さそうなので順次数を増やして現在に至っています。私はトランシーバーのおかげで道に迷わずに大助かりです。

最近ですと1回あたりの参加人数も多くなりトイレのことが頭痛の種です。前回の上小山田～長池公園ですと参加人員76名うち女性48名に対し女性トイレ1箇所です。このトイレは正山寺のものをお借りしました。皆さんより会費を頂いていますのでお寺さんに寸志ではありますが、御礼をしてきました。これは以前に尼子さんの発案によりトイレ使用のお礼をした方が良いのではとの話があり続けています。ここに書くほどの金額ではありませんが受益者負担が原則です。

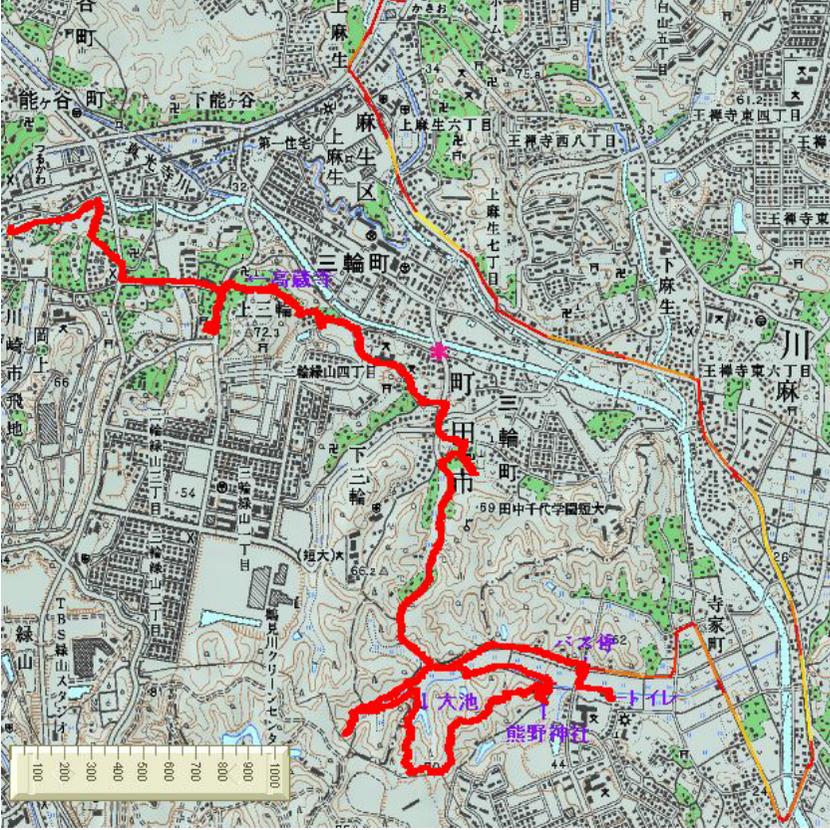
三沢川下りの時でしょうか、清水谷戸を歩き駒沢学園で昼食と考えたときのことですが、広沢さんよりの依頼で駒沢学園に電話をしましたところ、稲城市役所から当会が立ち寄りと言う連絡がほしいと言われ、会の成り立ち等を文章にして市役所市民課に行き説明をしたところ課長さんが駒沢学園に行き、立ち寄りをお願いをしていただきました。それ以来学園の食堂を使わせていただいています。書き遅れましたが、杉並の清水先生は駒沢学園の元先生で学園に挨拶をいただいています。

会の世話役は、細田さんが亡くなられたあと、尼子、馬場、満井、板谷と4名を加え、現在6名で運営しております。毎回の観察会では、このほかにボランティアの方をお願いして、観察した植物のナンバーリング、アナウンスのご協力をいただいております。「稲城野草散策の会」は参加した皆様のご協力をいただいて、分かる方が先生ということでやってきております。今後とも皆様のご協力をいただいて参加して良かったという会に行きたいと存じます。

会の運営の手段として、インターネットのホームページを開設し、観察会での追加の情報、参加した皆様からも情報を寄せていただいて、情報交換の場を提供しております。またメーリングリストも開設、参加した方にホームページ以外の情報もお送りしています。

最後になりましたが、会の資料も多くなってきましたので、皆様のご協力を得て本の出版が出来れば幸いです。

〔行事予定〕 2009/6/6 (土) 寺家(じけ)ふるさと村

項目	説明
集合	am10時、小田急線鶴川駅 北口改札口 ※会旗目標 改札口は北口と南口の2箇所です。ご注意ください
交通	鶴川駅へは小田急線をご利用下さい 鶴川駅には急行は止まりません。ご注意ください
行く先 (解散場所)	寺家ふるさと村を散策します 四季の家近くのバス停にてpm4時頃解散予定
見所 その他	ノイバラとしていましたが、この時期ではノアザミ、スゲあたり になりそうです 現地では弁当は調達出来ません。事前にご準備下さい
地図	
コース	鶴川駅→(徒歩)→寺家ふるさと村→バス停(解散・・・4時頃) コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円。